

展望バスに乗つて箱根まで走るの記

東京市技師 江 守 保 平

三月十六日(土曜日)——自動車旅行には持つてこいの上
 天気である。早春のことではあり氣温はまだ低くはあるが
 車中には暖房設備も完備してゐるから寒さの心配は更に無
 用だ。約京の午後二時には同行會員約十名品川驛前に集る。
 バスは既にその巨體を驛頭に横たへて人待ち顔である。富

士屋の社長は熱心な自動車研究家で今日もつて來てゐる此
 ホワイト型十七人乗の展望バスはシャシー、ボティー共に
 最近輸入されたものでその結構さに於てはアメリカの道路
 を走つて居る Luxury Interurban Bus と寸分異つて居な
 い。東京では此種の車が眼新しいと見えて人ぞかりがする

騒ぎ驛長さんまでが出て来てクツシヨンに凭れてみる。

二時にはすつかり準備も出来た。三木君關根君など幹事の心入れて車中には既に果物、飲物その他の食料品の洪水でこれなら幾日間車中に籠城しても大抵は干乾しになりそうもない。

大きな車に客は十人ばかりで樂に収まることが出来た。車の内部はさすが本場物だけあつて實によく整つて居る。

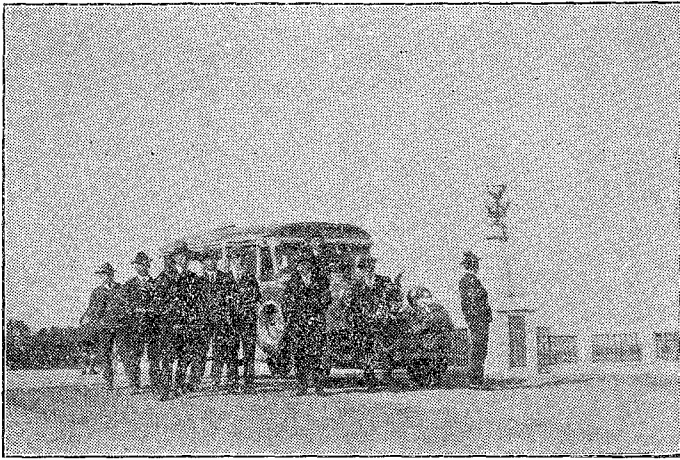
窓でも天井でもドアの具合でもまづ非難のうち所はない。

車床も普通の乗用車の様に低床であるから車全體が如何にもステープルな感じを與へて居る。長距離用バスに一番大切な必要條件は椅子のクツシヨンである。長途の旅行にも身體に疲れが出ない様にスプリングの具合に綿密な注意を拂ひ椅子も皆前向きにして展望車の本旨に沿ふ様にしなければならぬ。今此種の車は五、六臺あるとかで主として小田原、箱根間の定期に使つてゐるそうだが東京からもこんな乗合でいつでも箱根や日光へ旅行の出来る様にしておきたいものだ。

正二時には彌次喜太連得意然と椅子に收つて當世では見送りの仲間と水盃の心配もなく振り出しの品川驛をあとに東海道指して出發した。京濱國道は醜青混凝土乃乃至はマカダムで舗装されてあるので車の振動は極めて少い。要するに東京の道路の延長みたいなもので甚だ結構ではあるが悪い所まで似て居る様で自轉車や荷車が縁石に立てかけてある荷馬車が傲然と車道の中央を横行する。歩行者は所かまわず車道を横斷すると云ふ有様でスピードもあまり出せない、唯東京の道路と違ひ中央に電車軌道がないのでその點はいかにも有難い、そのため道路の中央部は自動車から落す油で黒々とアメリカ道路の色を呈してゐる。關西の阪神國道などでも軌道がなかつたらもつと能率が出せたかもしれない。結局軌道は専用軌道を自動車は専用自動車道と云ふことになるのだろう。車の中では盛んにメートルが上つて道路政策を中心として議論に花が咲いた。

二十分ばかりして六郷川をわたつてから神奈川縣に入つた。横濱からわざわざ出て来て吾々の東道役を引うけられ

た平川氏の領分に入つたことになる。氏自から陣頭にたつ



神奈川縣金澤に

て此國道

工事を進

めた當時

の苦心談

はなかな

かに盡き

ない。川

崎、鶴見

神奈川と

次第に過

ぎて横濱

の新停車

場前に着

いたのは

二時四十

分此間たつた四十分で時間に於ては電車や汽車と大差な

い。これから道を左にとつて横濱の市中へと向つた。始め

の計畫では舊東海道に沿つて程ヶ谷、戸塚を経て藤澤へ出

る筈であつたが時間に餘裕があつたので横濱から逗子鎌倉

を迂廻して藤澤へ出ることにしたのだ。

横濱の市中へ入ると自動車の進みはめつきりわるくなつ

て來た。交通も多いしそれにまだ舗装が出来てゐない所も

あるので振動も却々多く落付いてコップなどもつて居れな

い。省線電車の高架線沿ひに横濱で一番古い舗装道路だと

いふ戸部町通りのソリデチット舗装の上を走り櫻木町か

ら更に伊勢町通りの手前から左へ折れて漸く鎌倉街道へ出

ることが出來た。

今度新設された横濱、横須賀間の國道は舊鎌倉街道に沿

ひ杉田、金澤、田浦を経て横須賀へ出るもので幅員は四間

以上もあり、舗装も完備してゐるからドライブには申分な

い。既に大體は完成してゐるので工事を具さに見ることは

出來なかつたけれどもその工法は即ち瀝青注入マカダムで

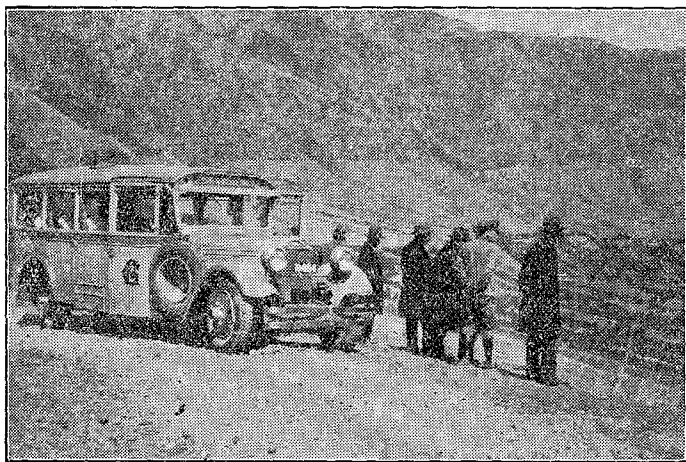
骨材としては川崎の日本鋼管のスラッグを用ひ瀝青材はア

スファルト又はコールドタルを加熱注入の方法により面坪七八ガロン位撒布したものである。

自動車走つても塵は少しし通行者も稀であるから細ひきつてスピードが出せる。何となく外國の道路を走つて居る様な氣もする。杉田を過ぎてまたたく間に金澤へ來てしまつた。金澤の町を出はづれた或橋の袂に車をとめてしばらく休憩する。此國道には橋がいくつもあつたが皆現代的な姿で旅行者によい感じを與へて居る。これもその一つであるがここは特に非常に見晴しがよい。金澤獨特の寂しい入江を前景としてその向ふには金澤八景が繪の様な姿を浮き出してゐる。一句出そうな所だが自動車旅行ではそんな風流氣もわいて來ず紀念撮影位な月並な所へ落付いてしまつた。

更に道を進めて田浦まで來ると横須賀へ歸ららしい水兵の姿も見えてゐるたがここで國道にわかれて道を右へとり返子へ出ることにした。しばらくは間道であるから道もせまいし又振動も却々ひどい。トンネルを一つぬけて本通りへ

出てから樂になつたがそれから間もなく返子へ着いた。



函嶺仙石谷で一行の眺望

山一重越すと非常に暖かい梅など既に盛りも過ぎてその馥郁たる香りは旅愁をそそるに充分であつた。

頃出來上つたと云ふ簡易鋪装を見たが却々手際よく出來て

返子驛前に車をとめて近

る。在來路盤を利用し之をアスファルトミキスチユアー
で蔽つたもので交通もあまり多くない故か少しも傷んだ跡
もなく外觀は高級舗装と少しも變らない。

停車前通りから道を右にとつて鎌倉へ向ふ。途中道路の
維持もよく行とどいて居るし林の間を縫つたりトンネルを
ぬけたり非常に氣持のいい道である。最後のトンネルを出
て踏切を一つ越すとこれがもう鎌倉の大町だ。間もなく長
谷の通りへ出る。震災後此邊はまるで變つてしまつて昔の
古典的鎌倉の俤をうかがうに由なく家並そろつた六間道路
が眞直に長谷の町を貫いて居る。恰度此通りは簡易舗装の
工事途中で日本石油の大きなローラーが盛んに活動してゐ
た。矢張り日本鋼管のストラッグを用ひた瀝青注入マカダム
で坪に七乃至八ガロンのアスファルトを撒くのださうであ
る。此工法で鎌倉のメインストリートを全部舗装するのだ
さうであるから工事完成後は此近邊の面目を一新するであ
らう。

坂の下通りから朝比奈切通しを抜けて七里ヶ濱へ出た。

此間の道は舊態のまま非常にせまくカーブも小さいので
大きな車ではひやひやさせられる。ドライブも却々氣骨が
折れるだろうが運轉手君非常に手際よくやつてのけ先づ難
間を突破した。それから七里ヶ濱の波打際に沿ひ繪の様に

霞んだ江の島を見ながら自動車は段々進んで行く。車の中
が暖かいため上氣しきつた顔へ潮風があたつて何とも云へ
ず氣持がいい。途中眺めのいい所所へ來るたびに車をとめ
て道草を喰ふので意外の時を費してしまつた。これでは目
的地へ陽のあるうちにつくことは覺束かない。漸くにして
片瀬の町を過ぎ又狭くるしい道をぬけて藤澤着これで再び
東海道の本道へ合したことになる。

藤澤は氣持のいい町だ。五十三次時代から鳴した宿だけ
あつて町全體の氣分も落つき總てが整つてゐる。宿場女郎
の顔を見られなかつたのは残念だ。震災後はその國道にあ
たる道路は十間ばかり取擴けられ現代的な町を形造つて居
る。

藤澤を出てしばらく行つて茅ヶ崎の少し手前に昔を偲ば

せる氣持のいい松並木がつゞいてゐる。二た抱もあろうと思はれる大きな松の木の下にお婆さんが茶店を出してゐるのも嬉しい。その中に本物の彌次さん喜太さんが氣焔をあけてゐる様な氣がする。

唯遺憾なのは折角の松並木も自動車のたてる埃で眞白になつて居ることだ。殊に我々の乗つてゐるバスはタイヤが太い故だろうその埃はものすごいばかりに舞ひ上り道行く人に氣の毒でたまらない。片手落の文明化はだから嫌がられるのだ。舗装とはゆかずとも何か簡単なダストブレーンションをさせることを切に希望する。

馬入川をわたる少し手前に頼朝時代に造つたと云ふ橋桁の跡がある。大地震によつて出て來たものださうで今は畑の眞中にあるがその時代の河筋にあたるのだらう。直徑二尺もあろうかと思はれる橋杭が十本ばかり六百年前の歴史を物語つてゐる。

馬入川の橋梁をわたり平塚大磯と進んでゆくが道路の狀態もいしそれに交通も少いので道程は意外に抄取つた。

東海道沿ひの宿々は皆錆がついて居て新開町にはみられない味がど



てしまつた。

箱根富士屋ホテルのサンルーム

い味がど
こかにの
こつて居
る。大磯
では鳴立
澤で西行
法師を偲
んだ。こ
こを出て
から國府
津まで町
らしい町
にも會は
ずひた走
りに走つ

酒匂川をわたると景色ががらりと變つてくる。右手に富士が雲の切間から遙かに姿を現はし箱根の連山はすぐ前に逼つて来る。又左手には相模灣が白帆を浮べながらおだやかにうねりを見せてゐるのも長閑だ。小田原に近づく時分から陽も漸く傾き始め夕照が如何にも美しい。もううす暗くなつた小田原の町を通りぬけて箱根の山道に入つてゆく。早川に沿つて幾何もなく湯本の町へ入つた時分はもう灯が入つて居た。暖かそうな灯の光りが早川の流れに映るあたりはいかにも遊蕩的氣分をそそる。唯、町中で道幅の狭いには閉口した。尤も温泉町の中を自動車で通り抜ける方が無理なので此狭い町並は入湯後の散策のためにとつておき自動車道路は全然別に新設するのが本當であらう。

此町を出ぬけてから道はいよいよ箱根八里の險にさしかかつて行く。震災後此山道も徹底的な改良工事で面目一新し夜道のドライブにも少しも不安を感じる様なこととはない。早川に沿つて上ること三哩ばかりで無事宮ノ下へ着いた。時に恰度六時半。

二時に品川を出てから四時間半で六十哩ばかりを突破したことになる。尤も途中隨分道草を食ひながら来たがどうか目的の地までたどりついたわけだ。もう全く暗くなつた坂道を宿から出迎へた爺さんの提燈の灯を頼りにしながら堂ヶ島温泉へ入つた。

三月十七日(日曜)——早川の流れの音を子守唄の様に聞きながら昨夜はぐつすりねこんでしまつた。今日も又絶好の上天氣である。早速温泉にとびこんで先づ眼をさましあたりの景色を物めづらしく眺めながら手速く朝食をかつこんだ。

九時頃宿を出て數丁の坂を上つて宮ノ下へ出る。時間まではまだ大分間もあるので富士屋ホテルのサンルームでしばらく自動車を待つことにした。ホテルの山口氏も出て来て色々接待してくれ又氏獨特のバス經營談も拜聴したが此方面にかけては却々造詣が深い。氏の研究が之までに我國バスの發達に資する所決して少くあるまい。

十一時頃ホテルの人々とわかれ昨日のバスに一同同乗し

て長尾峠へ向つた。途中あまり自動車にも會はず宮城野仙

石と次第に上つてゆき間もなく峠へさしかかつた。自動車

は山の裾の屈曲に沿つて右へまがり左へまがりしてきわど

い道を段々高く上つてきた。後には宮城野が一面に見わた

せる。上から見た高原の景色はいかにも大きい。頭に雪を

頂き神山は大きな線を畫いてその裾を一杯にひろげその氣

持よいスロープが此高原を形造つて居る。此高原の真中に

ゴルフリンクが設けられて居るがその赤い旗が陽炎の中に

ひるがへつて居るのも氣持よい。春の陽を全身にあびなが

ら力一杯あのクラブをふりあげるのもわるくはあるまい。

しばらく見晴しのいい路傍に車を停めて心ゆくばかり春の

陽を享樂する。

ここから長尾峠のトンネルまでは間もない。ここを境と

して神奈川縣にわかれて靜岡縣に入ることになる。トンネ

ルを出ると富士がその雄大な姿を以てせまつて居る。中腹

にはのどかに霞がたなびいて居るのも春らしい。正面の裾

には御殿場を中心に外の宿々が箱庭の様にちらばつて居

る。

しばらく茶店に腰をおろした。ここは山の懷に抱かれて

陽だまりになつて居るので實に暖い。恰度晝にもなつて居

るので露天へ縁臺を持出し御持參の辨當をひらいて一同會

食した。一時にはここを發ち今度は下り坂一方で途中アメ

リカ村などを經此間一時間たらずで御殿場まで一氣に下り

てしまつた。

御殿場は停車場へ横ついで時間の都合もよく三十分後に

は上り列車のクツションにもたれて氣持よく晴れわたつた

富士の姿を眺めて居た。

此旅行は徹底的に自動車旅行の趣旨を一貫したものであ

るがルートとしては極く樂な一年生程度のもものかもしれな

い。伊豆半島を廻つたり沼津靜岡あたりまで行つたら之も

面白いであろう。更に方面をかへて東京から北の方日光あ

たりにもバスが發達してゐるそうであるから此方の遠征も

やつてみたいものだ。(をばり)